

## 第6回委員会の意見（まとめ）

### ● 行政の協働

行政が変わる・対等に関わる → 行政がどのように関わるか？

[ 姿勢・意識 → 協働実施のために、参画制度の効果的な運用を表記 ]

- ・行政自体が協働にどのように取り組むかについての内容が弱い
- ・行政がどう変わることが大切で、旧態依然のスタイルでやっていると「協働しよう」といっても無理
- ・相互変革について、自治会、まち協、NPOなどの団体に加えて行政の絡みも対等でないとうまくみ合わない。

### ● 参画

参画はどの段階から、どの段階までできるのか？

今は変わったが（過去は・・・）

参画に関しては既に制度ができている → 実態がともなっていないのでは？

制度面にとどまらず、実現可能なものから多様な参画を工夫する必要がある

[ 参画は協働していくための基本 → 参画制度の効果的な運用、実現可能なものから多様な参画を工夫することを表記 ]

- ・参画の部分が抜けていて、行政側の視点が入っていない。
- ・情報が共有されてないと参画できない。（過去の経験からでは、ある日突然決定されたことを知らされた。どこまで参画に対して市民が入っていくことができるのか。）
- ・最近話し合いをしながら進めることも増えてきたが、過去には提案等の参画しようとしても壁があり、行政サイドが聞き置くだけで終わることもあった。
- ・ここ数年篠山市は「市民の合意でやろう」ということで変わってきているが、学校の統合や道路を付ける場合は、自治会長を納得させて終わりになっているといった手法が従来あったように思う。
- ・篠山城築城400周年イベントは市民が集まり計画段階から関わってやったため行政も市民も参画・協働したことになる。
- ・提案しても予算が付かないと単なる提案として却下ということになる。却下されるまでの間に話し合いの場が持てないか。（施策に結びつくまでの情報共有）
- ・「こういう場合は参画できる」とはっきりしたルールのようなものが明文化してあるとやりやすい。
- ・行政が相談に来るときは既に形が決まった段階でやってきて、意見を言えば、「それはできません。」「そこは既に決まっています」となっている。最初から関われるようになれば、少しは変わっていくと思う。
- ・400年祭をみんなでつくりあげたように、市民参画がどの事業までが可能か、どのレベルまで可能かがイメージとして持てればもっと変わると思う。
- ・逆に、対象を明確にしすぎると、できていたものもできなくなってしまう可能性もある。
- ・どの段階から参画して協働すればいいのかと思っていた。今回の委員会の議論で、どうすればいいのか漠然とわかってきた。行政向け、市民向けのアピールが必要と思う。
- ・参画については、篠山の制度にはあって条例などで権利を保障しており、やろうと思えばできるの

で、改めて書く必要はない。ただ、実態がともなっていないということがご指摘の点だ。  
・計画段階からの参画については、実現可能なものから進めていくことは重要で行政に要望する。

## ● 指針の見せ方

指針の内容を伝える工夫

パンフレット作成（啓発）、リーダーが広める努力

〔指針の冊子内容とは別の取り組みとして、今後調整〕

- ・冊子にしても誰も読まないで何も進まないと危惧する。指針の冊子のほかに、行政職員向けのパンフレットや市民向けのパンフレットなどを考える必要がある。
- ・指針の内容は集落や団体のリーダー的な存在の者が受け入れ、その一部でも利用していかなければならない。「本当に利用するか？」を言うのではなく、たとえ一部であれ指針の内容を、まち協や集落、団体などが利用できるようにしていく、普及させていくといった役目が我々にある。

## ● 民に委ねる

公益的な活動を民（地域、NPO等）に委ねる動きが出てくる

協働する際には必要経費を伴い委ねないと続かない

〔民による公益活動が長続きするには資金も必要 → 「協働事業の洗い出し」で表記〕

- ・今後は、行政の仕事を民（地域、NPO等）に委ねていくといった動きも出てくる。
- ・いろんな仕事を生み出し、お金も稼ぐという事業でないとなかなか長続きしない。
- ・協働事業の洗い出しが考えられるが、洗い出しても協働する際にお金がともなわなければ、民は事業を受け入れてくれるはずはない。
- ・行政が手の届かないところをNPOが活動していくうえで、マンパワーはNPOが提供するが、足りない資金は行政が支援できる制度を整えばと思う。

## ● 中間支援等

中間支援組織として市民プラザの必要性

審議会委員に市民組織代表枠の設定（アンケートではニーズ低い）

資金供給を審査する第三者委員会の設置

〔市民プラザの役目や期待、第三者委員会等外部審査機関の必要性を表記〕

- ・中間支援組織（市民プラザ）についても書いておく必要がある。協働するには中間的な役割が重要になってくる。
- ・篠山は今過渡期。市民プラザができたのはその第一歩。今は相談以上のことはできていない。
- ・市民プラザには様々な意見が届くが、それらを行政につなげる役目も持っている。
- ・各種審議会委員で市民委員として公募委員があるが、その分野で活動している団体には市民組織代表としての委員枠を設けてもらった方がいいのではないかと思う。
- ・活動団体に対する資金の供給の審査する、第三者の委員会はとても大切で、そういう経験を積んだメンバーを確保しておく必要がある。

## ● 内容

地域・NPO等・市職員が何かをしようとする指針に！

キーワードや具体的な事例を示すとわかりやすい

[ 具体的な事例やキーワードの表現 → 「活動事例」のなかで表現を工夫 ]

- ・全体としては、市民活動推進の指針といった感じがする。参画や協働にはいろんなシチュエーションがあると思うので、市民活動だけでなく行政が今までやっていることをクローズアップしては。
- ・自分たちの地域を自分たちでどうにかしようという機運にならないと参画や協働をしない。「自分たちで」といった内容を入れれば。
- ・この指針ができることで、NPOなどの市民団体が市民の力で何かをしていこうというようになることを期待する。
- ・地区内の変革に努めており、人が集まりやすい環境をつくらうとしているがなかなか難しい。みんなが参画しやすい指針を求める。
- ・指針は、参画意識の高い職員にお墨付きを与え、後押しをするようなものでもある。
- ・協議のなかから出てきたキーワード(「自分たちの地域は自分たちで」や「リーダーとして…」など)を7か条や10か条をつくれれば大きな方向性が定められるのでは。
- ・P14の「②地域内でのつながりの再構築」とあるが、わかりやすく「声掛け運動」「あいさつ」などを書いた方がいいのではないか。言葉を交わすのがつながる原点。
- ・「企業」の表記が無いので入れてはどうか
- ・具体的な事例を示す方がわかりやすい。